

表2 新型コロナウイルスの懸念される変異株 (Variants of Concern; VOCs)

2021.10.28 12:00時点

WHOの呼称	ベータ	ガンマ	デルタ
最も早期の検体例	南アフリカ (2020年5月)	ブラジル (2020年11月)	インド (2020年10月)
PANGO系統	B.1.351.x	P.1.x	B.1.617.2, AY.x
GISAIDクレード	GH/501Y.V2	GR/501Y.V3	G/478K.V1
Nextstrainクレード	20H (V2)	20J (V3)	21A
Sタンパクの主要変異	K417N, E484K, N501Y, A701V	K417T, E484K, N501Y, H655Y	L452R, T478K, D614G, P681R
感染性	•感染・伝播性の上昇	•感染・伝播性の上昇	•感染・伝播性の上昇 •2次感染率の上昇
重篤度	•入院リスク、入院時死亡リスクの上昇と関連している可能性	•入院リスクの上昇、重症化リスクと関連している可能性	•入院リスクの上昇
再感染性 (抗原性)	•非変異株に比べて、変異株に対する回復者血漿による中和能が10-15倍程度低下*1 •モデリング上、感染性増加がないと仮定すると、過去の感染による免疫から21%逃避していると推定されている	•非変異株に比べて、変異株に対する回復者血漿による中和能が6倍程度低下*1 •非501Y.V3株に比べて既感染による免疫を25-61%回避可能という解析結果がある •他株への既感染者の再感染事例の報告あり	•前回感染後180日以上経過した場合、アルファ株に比べて再感染リスクが高まるという報告がある •非変異株やアルファ株に比べて回復者血漿による中和能が4倍程度低下の報告あり*1
ワクチンの発症、感染に対する有効性*2	•発症に対して減弱の可能性があるものの、重症化に対しては不変	•明らかになっていない	•発症と感染に対して減弱の可能性があるものの、重症化に対しては不変

*1 in vitro (試験管内) での評価結果はin vivo (生体内) で起こる現象を正確に反映しないこともあり、本結果の解釈に注意が必要。

*2 国立感染症研究所. 新型コロナワクチンについて (2021年10月8日) : 懸念される変異株 (VOCs) に対するワクチン有効性について.